事業の実績

１．学生による保育活動への参加及びドキュメンテーションの作成

子ども家庭福祉学科の4年生28名が3期に渡り、熊本学園大学付属敬愛幼稚園の園児の保育活動に参加した（第1期：2023年10月10日・11日・15日/第2期：11月6日・13日・20日/第3期：2024年1月10日・15日）。また期毎にドキュメンテーションを3回にわたって作成した。

２．保育活動への参加及びドキュメンテーション作成を通じた振り返り会の実施（2024年1月24日）

一連の教育研究事業に参加した学生たちと教員にて振り返りをする場を持った。

3. ドキュメンテーションの開示及び保護者からのフィードバック

第1～3期の保育活動への参加を通じて、学生が作成したドキュメンテーションについては、敬愛幼稚園の先生方に添削を受け、2024年2月26日～3月8日の間、幼稚園内にて保護者向けに掲示を行った。掲示を見に来た保護者は多数であり、実施したアンケートへの回答者数は28名であった。

具体的な成果

１．　学生の省察の深まりについて

参加した学生からは、保育活動への参加やドキュメンテーションの作成を通じて、「実習等では流してしまっていた子どもの何気ない普段の遊びの様子に改めて焦点を当てられた」ことが語られた。養成課程を通じた保育実習や教育実習を基盤としながらも、学生自身が子どもの遊びに参加する中で、遊びを通して子ども自身が学びを深めていることを体験的に理解する機会となった。さらに子どもの姿をドキュメンテーションにまとめていくプロセスを通じて、子どもが遊びを通じて自ら学びを深めること、また子ども同士で学び合う・育ちあう姿に触れ、文章化することで子どもの遊びや保育者の援助について細やかに省察する機会となっていたことが伺えた。

２．　保育者養成課程段階から保護者支援の実際に体験的に触れられたこと

参加した学生からは、ドキュメンテーションの作成にあたり「保護者が読みたくなるレイアウトについて考えてみた」「文章表現を広げるために、他の園の園だよりなどを検索して伝わりやすい文章表現について考えた」等の意見が出た。また、参加学生のうち3名が保護者3名との懇談に参加し、保護者に発信することを意識するからこそ、「どのようなドキュメンテーションが見やすいか？」「どのような内容のドキュメンテーションを読んでみたいか？」等の質問が出た。保護者からは「区切りがある方が見やすい」「写真の説明がどの文章なのか一目でわかるといい」「普段の保育生活を見られるのがうれしい」等フィードバックを受けた。また、懇談の場では、学生から「新卒で保護者と話すときには、どのようなことに気を付けたらよいか？」等、今後保育現場に出ていくときの保護者対応を意識した質問も出た。学生自身が保護者支援について、実際に保護者とコミュニケーションをとることを通じて考える機会となった。このように保育者養成段階から保護者支援の取り組みを体験することは、保育実習生から職業人としての保育者への段差を緩やかにする可能性があり、学生の就職後の不安を和らげることも考えられる。

【課題】　事業に参加する学生が付属幼稚園の先生方や保護者の方と定期的にコミュニケーションをとれるような機会を設定し、学生自身にも成果や課題がより理解しやすいように工夫したい。